

KMT2022年3月

2022.3.28（月）18:30-20:00

例会

くまもと県民交流館パレア9階会議室2

「洋画家田代順七が描いた昭和の熊本」

昭和の熊本を代表する洋画家田代順七は、若い頃に熊本のまちなみを描いた水彩画を数多く残しています。今日は、それらの絵を鑑賞しながら田代順七が描いた昭和初期の熊本に迫ってみたいと思います。

話題提供：竹田宏司



1933年 水彩画



NPO法人熊本まちなみトラスト



HPはこちら

田代順七（たしろじゅんしち）

田代順七は、1900(明治33)年、玉名郡築山村(現玉名市山田)に生まれました。小学校を卒業後、看板屋で働きながら独学で洋画を学び、1934(昭和9)年、熊本県在住者として初めて帝展(現日展)入選を果たしました。以後、1985(昭和60)年に亡くなるまで風景画を中心に多くの油彩画を発表しており、阿蘇や天草など雄大な自然を大胆なタッチで描いた油彩画で知られています。しかし、当初は油彩画とともに水彩画も手がけており、遺された作品のなかには水彩画が多数あります。これまで注目されることがありませんでしたが、1920年代から30年代にかけて、まちの風景や静物を描いたこれらの水彩画は、光や色彩、構図の取り方など、その後の画業を考えるにあたって重要なものといえます。

また、田代は、小学校や高等学校、大学の教師として美術教育にも力をいれ、さらに熊本の洋画壇をけん引し続ける銀光会の結成や、東光会の発展に尽力し、田代絵画研究所などの設立など洋画の普及活動にも努めました。

略年譜

1900年/明治33年3月13日生まれる
1918年/大正7年 映画看板業の木下金吉に弟子入り
1926年/大正15年 小学校図画専科正教員検定試験合格、玉名郡神尾小学校図画専科正教員
1931年/昭和6年 熊本市碩台小学校に転勤。美術教師達と美育家協会を結成
1934年/昭和9年 熊本在住者として初めて帝展入選。以後文展、日展連続出品。銀光会を結成
1935年/昭和10年 帝展入選を記念、碩台小父兄会主催で初めての個展を千徳百貨店で開催
1936年/昭和11年 熊本市立高等女学校(現必由館高等学校)教諭(～1960年)
1947年/昭和22年 熊本大学建築学科非常勤講師(～1952年)
1953年/昭和28年 大江1丁目の白川端にアトリエを建て移るが626水害により罹災
1955年/昭和30年 「河畔」で日展特選
1968年/昭和43年 熊本女子短期大学(現尚絅大学短期大学部)教授(～1975年)
1985年/昭和60年 熊本県立美術館にて「田代順七展」開催。同展開催中に死去

竹田宏司（たけだあつし）

1962(昭和37)年八代市生まれ

玉名市立歴史博物館ころびあ館長／國學院大學文学部史学科卒／専門は考古学
NPO法人熊本まちなみトラスト副理事長

熊本まちなみトラストはー

1997年に取り壊し寸前の旧第一銀行熊本支店社屋(大正8年建造)の保存に成功したことを契機に、「記憶の継承」を基本コンセプトとして約60人の会員によって設立されました。その後、明治期の赤煉瓦月星化成熊本工場、大正2年建造の上熊本駅舎など、熊本の歴史を物語る建物の取り壊しの話がもち上がるたびに仲間を集め支援者を募りながら保存の道を探りました。

2016年熊本地震のあとはNPO法人となって西唐人町を中心に歴史的建造物の保存・復旧支援に取り組みました。2020年豪雨のあとも被災した人吉市の温泉旅館や球磨村にある焼酎蔵の復旧のお手伝いをしています。

今後も、生活空間の中に息づく郷土の文化遺産(文化財という法的な保護を受けていない場合がほとんどです)の保存活動に取り組みながら仲間を増やしていきたいと思っています。